

肥後金工⑥ 細川三斎と八代—肥後拵の魅力分析—

細川三斎と八代

細川三斎（忠興）は、永禄6年（1563）細川藤孝（幽斎）の長男として生まれました。妻は明智光秀の娘・玉（ガラシャ）。隠居剃髪後は三斎宗立と名乗りました。寛永9年（1632）国替で息子の忠利が肥後熊本藩主となり、三斎は中津（現大分県中津市）から八代城に移り住み、正保2年（1645）、八代城北の丸で亡くなりました。三斎について八代に来た平田彦三、彦三の弟子西垣勘四郎、彦三の甥志水仁兵衛ら金工職人によって、肥後金工が発展しました。

細川三斎と肥後拵

すぐれた武将であり、茶の湯をはじめ、和歌・能楽・絵画に通じた文化人であった三斎の美意識は、武具や刀装具のデザインにも発揮され、三斎が好んだスタイルが細川家の御家流として尊重されました。このうち、有名なのが「信長拵」と「歌仙拵」です。「信長拵」は加賀の刀工信長作の刀を納めた拵で、当初ものは現存しません。一方、「歌仙拵」は、関の刀工兼定作の刀を納める拵で、三斎が八代城在城の折、奸臣6名（36名とも）を成敗したという言い伝えから、六歌仙（三十六歌仙）にちなんでその名があるといわれています。

いずれの拵も、柄は黒漆塗の鮫皮の上に燻革を巻き、縁にも革を被せ、鞘は黒漆塗の鮫皮を研ぎ出し、よく鍛えられた鉄地の透鐔をかけています。一見地味ながら、凝った細工と武将好みらしい豪放さが発揮されており、肥後拵の代表といわれています。

肥後拵の特徴

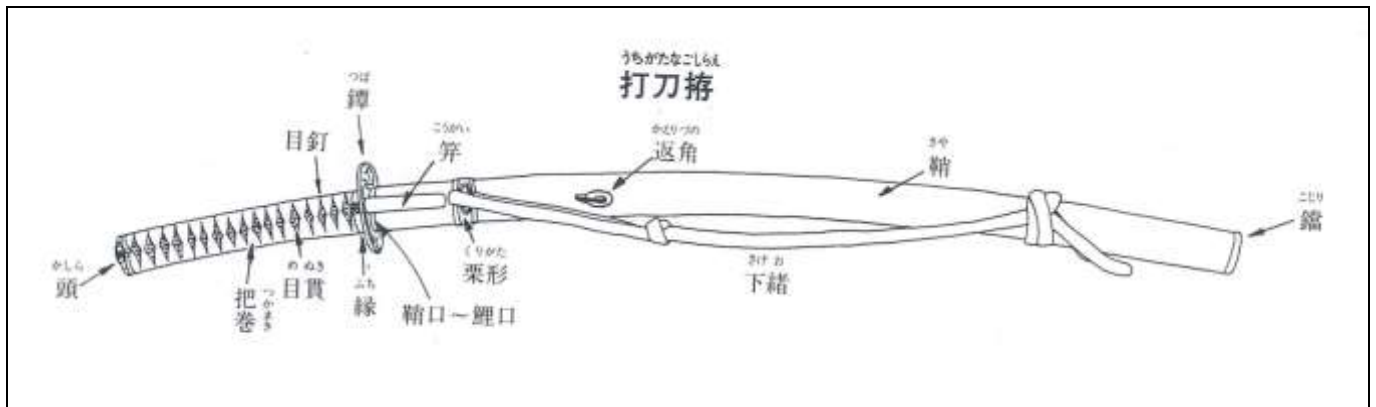
肥後拵は、三斎が考案し好んだ拵を模範としたものが代表的ですが、肥後で作られた金具を用いて制作された拵の総称でもあります。柄の長さが全長に対して短い、柄頭や

鐙が締まって形がよい、鯉口と栗形の間が狭いなどの特徴を備えています。これらは片手でも扱いやすく、実戦上の経験に基づいて行き着いた形ともいわれています。

こうした特徴は、豊臣秀吉所用の「金蛭巻朱塗大小拵」（桃山時代・東京国立博物館所蔵）や結城秀康所用の「朱漆打刀拵」（桃山時代・東京国立博物館所蔵）などに原形を見ることができ、三斎が生きた時代に流行ったスタイルの中から、自分好みの形を選び取っていったことがうかがえます。



拵の各部分名称



出品作品

1 打刀拵 (三斎愛用の「信長拵」を模して作られたもの。肥後拵の基本となる刀装。) 一口

本館蔵 江戸時代(17-19世紀)

頭/山金地 山道に波文鋤出彫 柄/黒塗鮫皮・茶革菱巻 目貫/赤銅地 九曜紋容彫 縁/皺革包 鐔/鉄地 碗形 銀布目象嵌(無銘 志水) 筭/赤銅地 花車に秋草文高彫色絵 小柄/赤銅地 餅つき人物図高彫色絵 鞘/鮫皮巻・梅花皮塗 鐙/鉄地 泥摺 下緒/茶革



2 打刀拵 (刃を下にして腰に提げる太刀に対し、刃を上に向けて腰に差す刀を「打刀」という。一口

本館蔵 江戸時代(17-19世紀)

頭/山金地 山道に波文鋤出彫 柄/白鮫皮・茶革菱巻 目貫/赤銅地 独鈷杵形 縁/赤銅地 波に龍文高彫色絵(無銘 平田) 鐔/鉄地 碗形 銀布目象嵌(無銘 志水) 筭/赤銅地 波に蛸文高彫色絵 小柄/赤銅地 波に龍文高彫色絵 鞘/黒石目地塗 鐙/鉄地 泥摺 下緒/紫平緒



3 打刀拵

一口

本館蔵 江戸時代(17-19世紀)

頭/山金地 山道に波文鋤出彫(無銘 平田) 柄/白鮫皮・黒糸菱巻 目貫/赤銅地 形象不明 縁/赤銅地 波文高彫色絵(無銘 平田) 鐔/鉄地 変わり九曜紋透彫 銀彫込象嵌(無銘 志水甚吾(三代力) 鞘/黒石目地塗 鐙/鉄地 泥摺 下緒/黒平緒



4 半太刀拵（兜金や石突など太刀拵の金具を備えながら下緒を通す栗形を備えたもの。） 一口
個人蔵（本館寄託）江戸時代（17-19世紀）

兜金/赤銅地 柄/白鮫皮・茶糸菱巻 目貫/銀地 三階菱紋容彫 縁/赤銅地 鐺/鉄地 木瓜形 赤銅覆輪 四方猪目透 切羽台左右に陰刻銘「八代／三代目甚吾作」 鞘/網代文 青貝微塵散 石突/赤銅地 下緒/白紺平緒



5 脇指拵（武士の正装では大小二本の刀を着用する。大を本差、小を「脇指」と呼ぶ。） 一口
個人蔵（本館寄託）江戸時代（17-19世紀）

頭/赤銅地 柄/白鮫皮・黒革菱巻 小柄・筭・目貫（三所物）/赤銅地 折墨形高彫色絵 鐺/鉄地 木瓜形 赤銅覆輪 四方猪目透 切羽台左右に陰刻銘「八代／三代目甚吾作」 鞘/雲気文 青貝微塵散 鐺/赤銅地 下緒/白紺平緒

6 打刀拵

一口

個人蔵（本館寄託）江戸時代（17-19世紀）

頭/素赤地 柄/白鮫皮・黒糸菱巻 目貫/赤銅地高彫色絵 素銅地鈍豆形 縁/素銅地 鐺/真鍮地 木瓜形 波文 鋤出彫（無銘 平田二代力） 鞘/朱地変わり塗 鐺/素銅地 下緒/白茶亀甲平緒



7 脇指拵

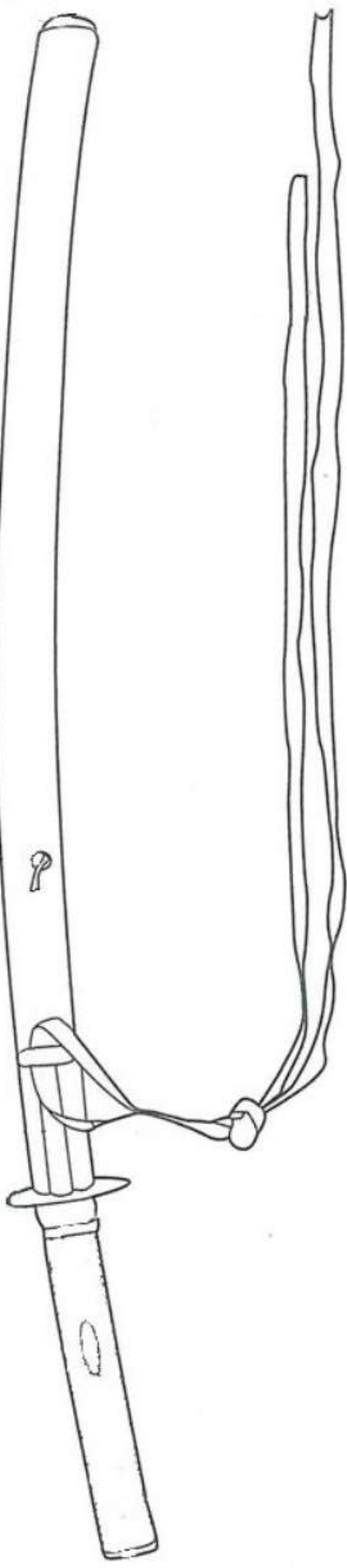
一口

本館蔵 江戸時代（17-19世紀）

頭/山金地 波文鋤出彫 柄/白鮫皮・黒革菱巻 目貫/赤銅地 枝に鳥文高彫色絵 縁/山金地 波文鋤出彫 鐺/鉄地 丸形 桜文透彫 鞘/黒漆塗 鐺/角黒塗

こしらえぬりえ

オリジナルこしらえをデザインしてみよう！ただし、三斎の「信長拵」みたいにかっこよくネ！



かしら 頭 つかまき 柄巻 めあき 自貴 ぐち 縁 つば 鐺 こつがい 弁 くりがた 栗形 かえしづの 返角 まや 鞘 こしり 鑑 ぎばお 下緒

【デザインのコツ】 あるテーマにもとづいてコーディネートしてみましょう。例えば、天の川、彦星と織姫、願い事を書いた短冊…で「七夕拵」など】

このこしらえに名前をつけてみましょう → 「**拵**」

こちらに投稿して「こしらえ自慢」してください → @museum8246

参加賞はありません。